

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：平成 27 年 11 月 1 日（日）11:00～11:20

会 場：茨城県霞ヶ浦環境科学センター

発言者：公述人 2

それでは、わたくしの意見を発表させていただきます。

霞ヶ浦の湖岸線の清掃を始めて、21 年が経過しました、この間に拾ったゴミの量は 100 トンを裕に越えると思われます。本日、皆さんのお手元に配布させていただきました報告書には、NPO 発足以来の回収したゴミの量が記載されております。霞ヶ浦のゴミピックアップと防塵挺身隊がこの 10 年間で回収したゴミの量は 60 トン以上にもおよぶものです。

清掃活動を通じて知り得たことは、ゴミを拾うと確実に植物の生育が著しくなるということでした。植物が繁茂することで昆虫が増え、それをエサとする魚や鳥が増え、さらにそれをエサにする動物が増えて、生物層は豊になることです。

しかし、その生物層の豊かさにストップをかけたのが、霞ヶ浦の水の透明度の減少でした。たびたび COD や BOD が水質のバロメーターで登場しますが、この値では、水の透明度には直接結びつきません。この証拠にこれらの値が上昇しなくても、1999 年から確認された湖水の白濁化によって、水中の清明感が失われてしまったのです。

湖水が白濁すると、あれほど大量にいたペヘレイが減少し、ワカサギの漁獲量も急激に減りました。この白濁により二枚貝が減少し、その貝を産卵場とするタナゴやビワヒガイも激減しました。

これは、白濁化により太陽光の水中透過量が減少して、プランクトン類の発生を抑制したり、あるいは変化させたものだと思います。この白濁化を消し去ったのが、大型台風による大雨、そして霞ヶ浦の大増水でした。それも、何度も霞ヶ浦に襲来しました。それまで滞留していた湖水をそっくり入れ替えるほどの力だったのです。白濁化が解消されると、その後はワカサギが豊漁になり、ペヘレイも戻ってきました。タナゴ類も少しずつ増えています。プランクトンが変化したのですね。これらの事実を考えますと、新しい水の流入、そして透明度の上昇こそが霞ヶ浦の水質浄化の重要なカギだとわたくしは考えております。

透明度を上昇させる一つの方法に、流水による効果が考えられます。池を持っておりまして、これが 6 メートル×18 メートル×1 メートルという大きさの池なんですけど、2004 年に池を作りまして、作った当初はモーターで水の循環をさせていましたが、その後、そのモーターが壊れて、水の透明度がどんどん失われてしまいました。2008 年、ちょうど 4 年ぐらいモーターを動かしたんですけど、2008 年にモーターが壊れて、その後、モーターを使った水の動きがなくなりました。すると、あっという間に植物プランクトンが増え、池はアオコに覆われてしまいました。水生植物もヨシ

とガマだけになり、やがて透明度は5、6センチもないほどに緑色に濁りました。

2013年の夏は、淡水の赤潮が出るくらいの状態に水が悪くなったのです。その年の10月、ちょうど今の時期ぐらいなんですけども、仲間達と水中ポンプを購入し、池の水が毎秒4リットル動くような装置を作りました。すると徐々にではありますが、池の水に透明度が戻ってきました。たった数ヶ月で水の色に変化が出たのです。

1年が経過すると、透明度は以前の倍以上の20センチほどになりました。すると低水温期であっても魚たちが動くようになりました。今年の厳寒期の1、2月でも魚たちが良く釣れたのが証拠です。これは太陽光が深い水深にまで届くようになったからだと思います。また、霞ヶ浦では減少しているマルタニシが増えました。モノアラガイは無数に発生しています。二枚貝も増えているようです。これらの全てが透明度の上昇に伴う太陽光の影響力だと思っています。

このように滞留している水を動かすことで、水の透明度を上昇させることが出来ました。すると水中の様々が変化していきます。

今年の春頃からガガブタが大量に増え、この夏には池の半分を埋め尽くすほどに繁茂しました。これは紛れもなく、透明度の上昇による太陽光の照射が、植物に多大な影響を与えているのだと思います。このような、素人による真似事実験であっても、流水の効果は目を見張るほどでした。水を動かすことは、水を生かすことにつながる、そう考えるようになったのは当然の成り行きでした。

もし、霞ヶ浦導水事業が完成し運用されるようになると、最大で毎秒15トンの水が流入するようになるとあります。15トンの水の量がどれほどなのかは想像は出来ませんが、莫大な量であることは予想できますし、霞ヶ浦の水質を大きく変化させる力を持っていると感じております。ちなみに、霞ヶ浦に流入する代表的な河川の平均流量を調べましたら、桜川が8トン、恋瀬川が3トン、えーと4トン弱ですね、小野川が2トン弱、巴川が3トン弱とありました。つまり霞ヶ浦導水事業とは、霞ヶ浦に新たな河川の流入口を設ける事業であり、この流動する水の力が霞ヶ浦の水質浄化に大きく役立つとわたしは考えています。

流水が水の透明度を上げ、沈水植物を増やし、植物プランクトンの増加を抑制する大きな力となることは、千葉県手賀沼に設置された北千葉導水路をご覧になれば簡単に予想できます。長い間水質ワーストワンだった手賀沼が、今では見違えるほどきれいになっています。ちなみに北千葉導水路の最大流入量は、手賀沼浄化水量で7トンだそうです。

そこで毎秒15トンの水が霞ヶ浦に流入すれば、霞ヶ浦の水の入れ替えが、現在の年間2回から3回になるという試算でした。これが霞ヶ浦の水質浄化にとって大きな力になると思います。

いずれにしましても、霞ヶ浦導水事業が早期に完成し、運用される事によって、首都圏の生活用水の確保と、霞ヶ浦の水質浄化がより早く進むと思います。また、未曾有の水害に対して、水の融通を行えることは災害による被害を少なくする可能性を秘

めています。自然災害に備えて安全で安心な水の確保は、国が取り組むべき最重要項目の一つだと思うのです。

2008年1月に開催しました、高浜の湖岸清掃の終了後に、霞ヶ浦導水事業那珂導水路勉強会を催しました。この時より、霞ヶ浦導水事業の重要性をより深く知り、その後、高浜機場前の清掃活動を霞ヶ浦河川事務所や石岡市役所と連携して毎年行っております。今年も12月5日に清掃活動を行う予定です。全ては霞ヶ浦導水事業那珂導水路を迎え入れるための準備としてです。それほどに、霞ヶ浦導水事業は、霞ヶ浦の住民にとって期待されている事業であるのです。

最後になりますが、既存の施設である常陸川水門の魚道や、美浦村の植生浄化施設の運用も今まで以上に頻繁に行い、霞ヶ浦の各所で水質浄化を推進できる体制を整えていただきますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

以上